



鯉学ニュース

NO.58 2013年4月

食品栄養科の黒田亜美さん、「全国2位」の快挙達成!!

黒田亜美さん(平成25年3月食品栄養科卒、大分県出身)は、24年12月10日、社団法人全国栄養士養成施設協会が実施した「栄養士実力認定試験」で、全国第2位という快挙をなすとげました。

栄養学や食品衛生学など14科目にわたる実力認定試験には、管理栄養士をめざす社会人・学生2638人と、栄養士をめざす大学・短大・専門学校 of 学生等6778人が受験。黒田さんは全国9416人の受験者の中で第2位、栄養士をめざす受験者の中では断トツのトップという、輝かしい成績をおさめました。

3月6日の卒業式に臨んだ黒田さんは、「2年間、鯉淵学園の授業を中心に学んできたことの成果を出すことができ良かったです」と述べ、「全国第2位」を達成した喜びの気持ちを表しました。4月から社会福祉法人栄寿会で活躍することとなった黒田さん。「これからは、『見た目元気になれるような食事の献立』、『味で笑顔になれるような献立』をたてられる栄養士として努力していきたい。職場でさらに努力し、管理栄養士の資格取得をめざしていきます」と、今後の抱負を笑顔で語りました。さらに黒田さんは、鯉淵学園の後輩たちに対し、「勉強ができる機会とすばらしい環境を与えられた。そのことを大切にして、先生や友達から自分が足りないことをたくさん吸収してほしい」とのメッセージを残し、鯉淵のキャンパスを巣立っていきました。



「全国第2位」表彰の副賞を持つ黒田亜美さん

17名が「食育栄養インストラクター」の資格を取得

学生部長の入江三弥子教授は、「黒田さんのような学生を社会に送り出すことができたことを、私たち教員は誇りに思っています。彼女なら必ず夢を実現し、社会人として大きく羽ばたいてくれるでしょう」と、期待しています。

さらに入江教授は、今回の栄養士実力認定試験で得られた、もうひとつの成果を強調します。それは、認定試験にチャレンジした本学2年生35名のうち、優秀な成績をおさめた17名が「認定証A」の評価を得て「食育栄養インストラクター」の資格を取得できたことです。「鯉淵学園の食品栄養科では4年制大学の教科書を使うなど、ハイレベル教育の成果が出てきています。25年度以降もさらに大きな成果をめざし、学生・教員一体となって挑戦していきます」と、入江教授は決意を新たにしています。

「ファーマーの卵」たちのブログ



鯉淵学園ミニ農業法人「ファーマーの卵」のブログより(<http://ameblo.jp/farmer-no-tamago>)

鯉淵学園では、学生による「ミニ農業法人」のクラブ活動を奨励しています。これは、学生たちのグループが自ら出資して「農業法人」を立ち上げ、本学の農場で生産した野菜を学園の直売所等を通じて販売するというクラブ活動です。24年度に活動した3クラブのうち、最も積極的に事業を展開したのが「ファーマーの卵」。食農環境科の5名の学生たちが組織した「ファーマーの卵」は、食品栄養科の学生たちの「ミニ法人」に技術指導をかって出るなど、その活動ぶりが教員たちからも高く評価されてきました。

なかでも注目されたのがブログを通じた彼らの情報発進。農業経営者をめざす自分たちの思いや野菜生産へのこだわり、そして日々の苦労ばなしなどを消費者へネットを通じて伝えたい。こうした目的で立ち上げられたブログでは、「ファーマーの卵」たちの生産から販売にいたる活動が多くの写真とともに公開されており、「消費者と生産者のかけ橋」になりたいという学生たちの思いが伝わってきます。

「ファーマーの卵」代表の澤田将志さん(写真右端、食農環境科25年3月卒、愛知県出身)は、24年度の活動を次のように振り返りました。



2月17日「いばらきを食べよう！直売所フェア」に参加した「ファーマーの卵」たち(於 イオンタウン水戸南)

「8アールの農地にコマツナやパプリカ、コールラビなど30品目の野菜を生産しました。学園の直売所やイベント会場で販売し、売上は40万円を超えました。ブログの立ち上げなど、いろいろ勉強になりましたが、仲間と助け合いながら自分たちの活動を自由に楽しめたことが最大の成果でした。私たち5名は卒業しますが、後輩たちも鯉淵ならではの『ミニ農業法人』の制度を活用して、生産から販売まで大いに楽しんでほしい」。

教務部長の長谷川量平教授は、「ブログには外部からのアクセスも増えるなど、ネットを活用した彼らの本格的な情報発進には感心した。『ファーマーの卵』で得た貴重な経験を今後の活動に活かし、将来は指導的な農業経営者として地域の農業発展に貢献してほしい」と、エールを送ります。

現場に根ざした農業経営の教育を強化する食農環境科

学園 OB の成功事例に学ぶ学生たち :

2月7日、鯉淵学園は茨城県、同県農業会議等の後援のもと、「先進農業経営講座・農業経営者交流会」を開催しました。その目的は、本学を拠点とした農業経営者の交流・情報交換を促進するとともに、学生と農業経営者とのふれあいの場を形成することにあります。自らの体験など貴重な情報を学生たちに提供した当日の講師の多くは、大内一也さん(平成23年度日本農業賞大賞の受賞者、宮城県栗原市)など、本学を卒業した農業生産法人等の経営者。

地域農業の指導者として活躍する大内さん(33期卒)は、次のように述べて学生たちを激励しました。「大規模な集落営農を経営していくには何よりも基本的な生産技術の習得が必要だ。農業の現場では、コンバインなど機械操作の得意な若者は多いが、鯉淵学園の学生のように農業機械も操作でき、生産技術も身につけている者は少ない。鯉淵で学ぶ以上、農業経営者をめざしてほしい」。

農業経営者と意見を交換した学生たちは、「本気で農業に取り組んでいる先輩たちの熱意に感動した」、「農業の魅力を改めて認識した」、「基本をしっかり学ぶことの重要性を痛感した」など、先輩たちの成功事例に強い関心を示しました。鯉淵学園は、「作る農業」から「経営する農業」をより重視する方向で教育事業を強化していくため、交流会の結果を25年度からの教材に活用し、学園 OB の農業生産法人等の経営者による特別講義も増やしていくことにしています。



「農業技術の基本をしっかり身につけてほしい」と、学生たちに語りかける33期卒の大内一也さん

学園祭での模擬店経営の実践を教材に活用した JA コース :

3000名を超える来場者を迎えて大盛況となった鯉淵学園祭(24年11月3日)。この学園祭に出店した「沖縄屋」の経営実績が食農環境科・JA コースの後期授業で実際の「教材」に使用され、学生たちの関心を集めました。300食近い沖縄そば(1杯500円)などを完売した「沖縄屋」の店主は福濱由美子さん(24年度 JA コース1年、沖縄県出身)。福濱さんは、模擬店開設の準備費から学園祭当日の材料費、アルバイトへの日当、売上高など、資金の詳細な流れをすべて記帳・管理し、その結果を「貸借対照表」と「損益計算書」に取りまとめました。



「沖縄屋」が出店した学園祭の模擬店コーナー

これらの財務諸表の作成を指導したのは、24年度 JA コースの農協会計論を担当した高光治秀講師(株式会社組織デザイン推進本部長、元スイス農林中金社長)。高光講師は、「学園祭の模擬店も大企業も、経営という観点からとらえれば、基本は同じ。『沖縄屋』の損益計算書などを活かした教材として使用することが、会計論の基礎を勉強する上で効果的」と判断し、模擬店経営の結果を授業の「ケーススタディ」として初めて取り上げました。

経営コンサルタントの豊富な経験を持つ高光講師は、次のように述べています。「学生たちに経営感覚を身につけてもらうため、身近で分かりやすい教材を今後も活用していく。『沖縄屋』は繰越利益剰余金を計上しており、福濱さんはすばらしい経験をした。25年度の学園祭では、多くの学生が模擬店を開いて実際の経営を学んでほしい」。

◆ Campus 短信

料理コンテストへ積極的に挑戦した食品栄養科の学生たち：

本年2月、卒業目前の食品栄養科2年生全員が2つの調理コンテストに挑戦。2年間の学習成果を発揮するため、学生たちは知恵と工夫をこらしてコンテストに臨み、昨年度以上の成果をあげることができました。

最初のチャレンジは、日本即席食品工業協会主催の「明日の食の専門家が考える！インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2013」。黒田亜美さん(25年3月卒、大分県出身)が、応募総数1692点の最終審査対象(12点)に選ばれ、2月11日の最終審査で「栄養と料理賞」を受賞しました。2度目のチャレンジは、行方食彩マーケット会議(茨城県行方市)主催の「なめがたベジスイーツコンテスト」。2月24日の最終審査で、井上周二さん(写真左、25年3月卒、東京都出身)と田中友美さん(写真右、同卒、茨城県出身)がともに「優良賞」を受賞するという大成果をあげました。



「大葉の草もちー！」と「行方トマトのティラミス」でそれぞれ優秀賞を受賞した井上周二さんと田中友美さん

指導を担当した、食品栄養科の浅津竜子准教授は、「県外からの入学生と県外での就職先が増えている本学では、全国トップクラスの教育成果をめざしており、どこでも通用する栄養士を育成するため、外部のコンテストに今後も積極的に挑戦していきます。『他流試合』に対する学生の参加意欲は高まっており、25年度はさらなる成果をめざしたい」と、意気込んでいます。

募集要項の一部を改正し、就農や栄養士をめざす志願者への対応を強化：

本学は平成26年度4月入学の学生募集要項を一部改正しましたが、学生部次長の中島智准教授はそのポイントを次のように紹介しています。「現在の食農環境科がアグリビジネス科に変更。これにともなってコース・専攻の一部が変わります。2012年の『国連・国際協同組合年』を契機にJAや生協などの協同組合に対する社会的関心が高まるなかで、JAコースの教育内容を拡充強化して協同組合コースへ変更。卒業後の就職先は生協などへ広がる可能性がでてきます。また、新設した「社会人自己推薦枠」には、栄養士などをめざす社会人の積極的な活用が期待されます。さらに、特待生の枠も増やしました」。



国連が定めた「国際協同組合年」の日本版ロゴマーク

なお、鯉淵学園に対する高校生などの資料請求の時期が大幅に早まり、本学のモバイルサイトやフリーダイヤルなどを通じた志願者の問い合わせが増えています。特に、本学のアグリビジネスコース入学を検討する高校生や社会人から、政府の青年就農給付金(年間150万円)に関して『基本的に返済不要と聞かすが、どのような条件が求められるのか』、『給付金の申請は指導してくれるのか』、『非農家出身だが、卒業後は農業生産法人に就職したい。給付金は受給できるか、就職を支援してくれるのか』など、さまざまな質問が寄せられています。

対応に追われる中島学生部次長は、「学生募集課や就農等支援課を設置し、出願者対応の態勢を強化しています。募集要項の変更や青年就農給付金、奨学金、特待生など、どのようなことでも遠慮なく相談してほしい」と、呼びかけています。

茨城県所管／農業団体助成／厚生労働大臣指定
鯉淵学園農業栄養専門学校

〒319-0323 茨城県水戸市鯉淵町 5965

☎ 0120-831-464 FAX029-259-6965

ウェブサイト：<http://www.koibuchi.ac.jp>

E-mail：kyoumu@mail.koibuchi.ac.jp

(お問い合わせ等はウェブサイトや携帯・スマートフォン対応のモバイルサイトからも受け付けています。QRコードを活用ください。)

